

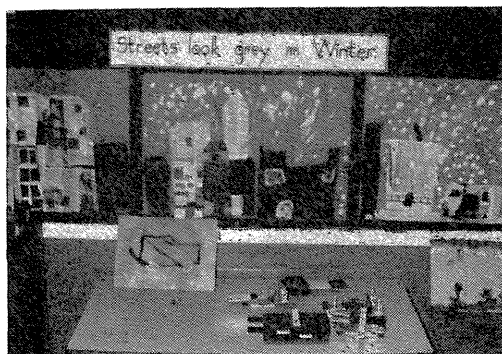
大切にされる手づくり、本格的な木工作

職業訓練大学校 森 下 一 期

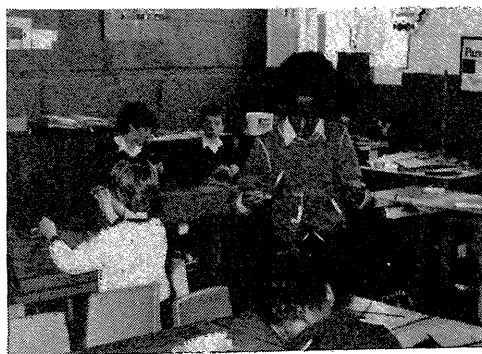
子どもたちが工作をしている姿を見ることができたのは、ロンドンの小学校とストックホルムの小学校です。ともに幼児の保育も行っていました。その幼児から小学生まで、多様な工作をしていたのが印象に残りました。主として紙を使い、ちぎってはりつけるところから、自動車やお面をつくるまで数多くの教材が見られます。あるいは日本と大差ないかもしれませんが、教室内の飾り付けなどから工作のとり組みを大切にしている姿が感じられました。中でも印象的だったのは、

ロンドンの小学生が、ボール紙で作った手製の筆箱を使っていたことです。私が訪問した小学校だけかもしれませんが、日本との違いを見せつけられたように思いました。

ロンドンの小学校とストックホルムの小学校ではかなりの違いがあります。11才までの前者では木工作は扱いません。そのため、工作室も特別には設けられていないのです。しかし、後者では9才(3年生)でスロイドという工作(及び裁縫)の時間に、本格的な木工作を行っています。そのときには、中・高



幼児の教材にレゴもありました



真剣にモビールに取り組んでいます



こんな自動車もつくっていました



筆箱は手製です

